

科目名	施設実習 I						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	2	通年			
担当者名	保育教員		関連する資格	保育士資格 必修			
授業概要 居住型児童福祉施設等の生活に参加し、入所児（者）の施設内外での生活をありのままに捉え、入所児（者）への理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の目的や機能とそこでの保育士に職務や役割について学ぶ。 尚、実習形態は、宿泊 10 日間となる。							
到達目標 入所児（者）と生活をともにすることを通して、施設の実態や入所児（者）の現状を体験的に学び、施設保育士としての資質を高める。			成績評価方法 ・実習評価表 ・実習日誌 ・「実習を終えて」レポート				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験（中間・期末）							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習日誌	○	○	○	○	○		20
実習	○	○	○	○	○	○	60
授業計画と概要					アクティブラーニング		
施設実習 I は次のとおりである。 1.対象施設 居住型児童福祉施設等 （原則として県内の児童福祉施設等。県外を希望する場合は個別に対応） 実習施設の選定、決定にあたっては、様々な状況を鑑みて決定する。 2.実習時期及び実習期間、実習形態 時期：2 年次夏季休暇中（8 月中旬頃） 期間：10 日間（但し、通勤実習の場合は 12 日間とする）							

<p>形態：宿泊（但し、施設等に応じて通勤の場合もある）</p> <p>3.実習配属及び人数 原則として実習配属は、様々な状況を考慮し担当教員で決定する。 人数は、おおむね1施設4名以内とする。</p> <p>4.実習の流れ 実習は、おおむね①から③の流れで進めていく。 ①実習初期：見学・観察実習（生活を共に過ごす中で、子どもや利用者の生活の様子や保育士の動き等を理解する） ②実習中期：参加実習（実習テーマも踏まえ、子どもや利用者との関わりを積極的に取り組み、特性や支援方法等について理解する） ③実習後期：指導実習（保育士等の職員と相談をしながら、実習テーマを実践的に取り組む）</p> <p>5.勤務形態 実習生は、各実習施設の職員に準じて勤務し実習を行う。</p> <p>6.事前・事後学習 事前・事後学習として、「施設実習指導Ⅰ」にて行う。 内容は、「施設実習指導Ⅰ」シラバス、及び授業初回ガイダンスにて確認すること。</p>	
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> ・実習事前学習の一環として、実習施設で行われる行事にボランティアとして積極的に参加し、できるだけ実習施設や子ども・利用者の理解を進める取り組みを主体的に行なうことを望む。 ・実習終了後、自己学習として、実習日誌をもとに実習のふりかえり（ふりかえりシート記入）を行う。 	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>実習のしおり 保育福祉小六法（株式会社みらい） 適宜、資料（プリント）を配付する</p>	施設実習指導Ⅰ、保育所実習Ⅰ、施設実習Ⅱ
備考	
<p>本科目は、保育士資格取得を希望する場合の必修科目である。</p> <p>保育士資格取得を希望する者は、施設実習Ⅰと併せて保育所実習Ⅰを履修し、加えて保育所実習Ⅱまたは施設実習Ⅱを履修すること。</p> <p>施設実習Ⅰを履修する者は、併せて施設実習指導Ⅰを必ず履修すること。</p> <p>【オフィスアワー】 主担当教員：弘中 陽子 hironaka@ube-c.ac.jp</p>	